

行政参加型の研修会開催

官民協働で適正処理推進へ

三重県清掃事業連合会

(一社)三重県清掃事業連合会(片野宣之会長)は5月10日、同県四日市のプラトンホテル四日市で、2019年度の行政参加型研修会を開催した。同会員の他、県と21市町の行政担当者を含む85人が参加し、県・市議会議員などの来賓も多数出席。一般廃棄物処理事業の在り方について学びを深めた。



片野宣之の会長



会場のようす

となり心機一転して、県内の一廃処理事業者の相互理解の下、業界の地位向上と事業環境の改善を図り、循環型社会構築に資することを目的に活動していく。環境省からの重要

通知の周知徹底、国連の持続可能な開発目標(SDGs)にも取り組む。さらなる会員拡大を図り、官民協働で一廃の適正処理と減量化、再資源化に努めた」と話した。

環境省中部地方環境事務所資源循環課の水原健介課長は、「一般

廃棄物の適正処理の推進と今後の災害廃棄物対策について」をテーマに講演。「平成20年6月19日付け廃棄物対策課長通知」や「平成30年6月22日付け廃棄物適正処理推進課長・廃棄物規

制課長通知「建築物の解体時等における残置物の取り扱いについて」などのポイントを解説した他、自治体における災害廃棄物処理の進捗等を紹介した。

また、(一社)全国清掃事業連合会の山田久専務理事は「SDGs推進、地域循環共生圏づくりと同形一般廃棄物処理事業者に課せられた使命」と題して登壇。「SDGs推進、

地域循環共生圏づくりの活動は、これまで行政や一廃業者がそれぞれ立場から懸命に取り組んできた循環型社会形成・3R推進の事業と同質のものだ」と語り、国の施策等について説明を行った。